

**製品名: TCF-4/12 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18736**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TCF4/TCF12 TCF4; BHLHB19; ITF2; SEF2; Transcription factor 4; TCF-4; Class B basic helix-loop-helix protein 19; bHLHb19; Immunoglobulin transcription factor 2; ITF-2; SL3-3 enhancer factor 2; SEF-2; TCF12; BHLHB20; HEB; HTF4; Transcription factor 12;
別名	
遺伝子 ID	6925/6938
SwissProt ID	P15884/Q99081
免疫原	抗血清はヒト TCF4/12 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 581-630

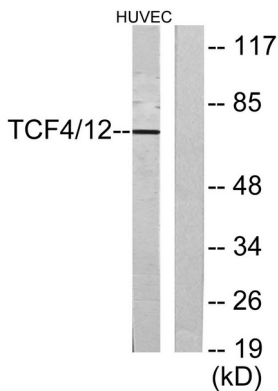
**背景**

この遺伝子は、基本的なヘリックス・ループ・ヘリックス型転写因子である転写因子 4 をコードしています。コードされているタンパク質は、エフラッシュボックス（「Eボックス」）結合部位（「CANNTG」）を認識します。このモチーフは、免疫グロブリンエンハンサーで初めて同定されました。この遺伝子は広く発現しており、神経系の発達において重要な役割を果たす可能性があります。この遺伝子の欠陥は、ピット・ホプキンス症候群の原因の一つです。さらに、通常 10~37 回の反復単位からなるイントロン CTG 反復配列は、50 回を超える反復単位にまで拡大し、フックス角膜内皮ジストロフィーを引き起こすことがあります。異なるタンパク質をコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]、疾患：TCF4 の欠陥はピット・ホプキンス症候群（PTHS）[MIM:610954]の原因です。疾患：TCF4 のハプロ不全はピット・ホプキンス症候群（PTHS）[MIM:610954]の原因です。PTHS は、重度の精神運動遅滞、てんかん、乳児期に始まる日中の過換気発作、出生後の軽度成長遅延、出生後小頭症、および特徴的な顔貌を特徴とするまれな症候群性脳症です。これまで報告された症例のほとんどは散発性であり、男女比は同程度であることから、PTHS は常染色体優性疾患とみなされています。機能：免疫グロブリンエンハンサー Mu-E5/KE5 モチーフに結合する転写因子。ソマトスタチン受容体 2 のイニシエーターエレメント（SSTR2-INR）に存在する E ボックスに結合し、転写を活性化します（類似性による）。5'-ACANNTGT-3'または 5'-CCANNTGG-3'のいずれかに優先的に結合します。配列注意：不完全で、おそらく誤りの配列です。類似性：1 つの基本ヘリックス・ループ・ヘリックス（bHLH）ドメインを含みます。サブユニット：効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要です。ミオジェニンとホモオリゴマーまたはヘテロオリゴマーを形成します。HIVEP2 と相互作用します。組織特異性：成体では心臓、脳、胎盤、骨格筋に発現し、肺にも少量発現します。発達中の胎児組織では、主に脳で発現します。

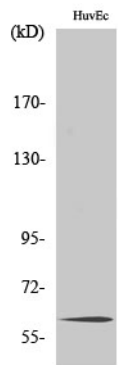
## 研究分野

幹細胞経路; 接着結合; WNT; WNT-T 細胞;  $\beta$ -カテニン; タンパク質アセチル化

## 画像データ



TCF4/12 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TCF-4/12 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。